

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第30回）の審議要旨

- 1 日 時 令和3年7月27日（火） 10:00～11:45
- 2 場 所 県庁 第2会議室
- 3 出席者 堤委員長、岡藤委員、木村委員、田中委員、中島委員
(委員長以外50音順)

《内 容》

I 委員長選出

委員の互選により、堤委員を委員長に選出。

II 審議事項

令和2年度における業務の実績に関する評価について

令和2年度における財務諸表等について

→ 資料1～6及び補足資料1～3により、事務局・法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○センター

＜産業技術に関する相談等の充実について＞

●小項目第1－3（1）産業技術に関する相談等の充実について、評価が「2」となっているが、WEBでの相談件数等も考慮しているのか。

○WEB相談等については、件数を区別してカウントする仕組みにはなっていない。

＜ホームページについて＞

●ホームページについて、情報は多いが分かりづらいので、分かりやすくしてほしい。

○情報化担当の職員を専任で配置し、検討を進めている。

＜使用機器について＞

●使用機器について、古い機器があるが、性能に問題はないか。

○使えない機器は掲載していない。

●正しく計測できるのか。

○主要機器については、計画的な保守・校正に加えて標準試料を用いた自主検査等を実施し、信頼性の確保に努めている。

＜他の公設試験研究機関との比較について＞

●他の公設試験研究機関と比較して、山口県産業技術センターの弱みはあるか。

○博士号取得者数が少ないこと。個々の研究員のスキルアップについては、検討していきたい。

<財務諸表について>

- 財務諸表の貸借対照表について、(3) 投資その他の資産は、過去2年と比較して増額しているが、どのような内容か。
- 新事業創造支援センター入居者の家賃不払いがあり、昨年度、裁判所から明渡し・支払の判決が下されたが、回収の見込みがないため、破産更生債権として計上した。

<技術支援後の対応について>

- 技術支援した企業について、きちんと売上として成果が出ているのか確認していくのか。
- 昨年度、フィードバックをかける仕組みを試行的に作った。どのようなフォローアップが必要か、聞き取り調査を中心に行い、回答企業の3割近くが「今後の支援は不要」であった。今後、この仕組みを継続的に実施し、支援を希望する企業に対するフォローアップの在り方について検討を進めたい。
また、販路開拓については、やまぐち産業振興財団の範疇ではあるが、継続的な支援も必要と考えているので、検討していきたい。
- 確かに、産業技術センターの役割とは少し違うのかもしれないが、産学公連携という意味でも、別の角度で検討していただきたい。

<相談窓口について>

- 何から相談すべきか分からない企業向けの、気軽に相談に行けるような窓口はあるか。
- 技術相談室というものがある。また、各地域で様々な研究会を行っており、その際相談を受けるという取組みも行ってきた。今後も積極的に行っていききたい。
- 気軽に相談にいけるような工夫もしてほしい。
- 検討していきたい。

<取組みのPRについて>

- 補足資料1 成果事例集に掲載されている「ソフトクリーム用ロボットの外装製作」について、今朝、TVで紹介されていた。産業技術センターの協力という記載があればよかった。
- こういったところでのPRも検討していきたい。

<幅広い支援について>

- 補足資料3の「1. 県勢について」で、事業所数1709とあるが、この事業者をユーザーとして取り込むために、どのような活動をされているのか。
- 産業技術センターを知らない企業の掘り起しが重要と考えており、昨年度も、公開講座の開催を通じたPR活動を行おうとしたが、コロナ禍の影響で中止と

なってしまった。今後も積極的に情報発信を行っていききたい。

<広告宣伝活動の支援について>

- 技術支援の成果として製品化された場合、その後の広告宣伝活動についてもバックアップするような仕組みはあるのか。
- 販路開拓支援は、やまぐち産業振興財団の範疇であるが、我々としてもPRが重要と考えており、共同研究の成果については、しっかりと記事を書いてもらえるようなプレス資料を作るよう工夫していこうと考えている。

<施設見学について>

- コロナ禍の影響で、修学旅行の行先が山口県内であったり、また、家族旅行の行先として、今まで行ったことがないような、少しマニアックな場所が候補に挙がるが増えている。また、来た人が面白いと感じれば、SNSでどんどん発信してくれる時代になっているので、この状況をチャンスと捉え、上手く活用できるといい。
- 産業技術センターの施設見学については、まだまだ知られていないと認識している。うまくPRできるよう検討していきたい。

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。
《各委員了承》